## 資料 A･B･C について

① 文化施設3館（1. 浪切ホール、2. 自泉会館、3. マドカホール）が令和2年度に実施した文化・芸術の事業を対象としています。
② 浪切ホールと自泉会館の指定管理者募集時（平成 27 年夏）において、計画の第6章で定めた、各施設の役割に沿った事業展開を求めています。
③ 浪切ホールは事業本数が多いため、別途、資料 A-2 をご覧ください。
④ 自己評価については、資料1と同様に、S･A･B･C の4段階で記載しています。
また、「来場者の満足度」「入場率」「事業実施者の満足度」の3つの側面からも評価を行っています。

## 資料 D について

① 令和2年度に、市の各課が実施した文化・芸術に関連する事業（各種講座や催事・イベント等）を対象としています。
② 基本目標・各方向性（別添）は、主たるものから順に左側から記載しています。また、基本目標の番号順に並んでいます。
③ 主な対象者、実施内容や課題、今後のビジョンについて、それぞれ記載しています。
④ 文化活動の形態、広報活動の媒体、協働・協力した団体、事業費について、それぞれ記載しています。
⑤ 自己評価については、当該年度における担当課の意見と、また、事業の計画に対してどのような結果であったのか S･A･B･C の4段階で記載しています。
コロナによる中止になった事業については、途中経過で評価している事業やCで評価をしている事業、評価できずに空欄になっている事業とあります。

S ：計画以上の効果があった
A ：ほぼ計画どおり
B ：計画を、やや達成できず
C ：計画を達成できず

⑥「新規」とは、その年度から取り組んだ事業について、「継続」は、次年度も実施した場合（予定含む）についてそれぞれ〇を記載しています。